

## 学位論文審査の概要

博士の専攻分野の名称      博士（医学）      氏名 三浦 巧

主査 教授    武富 紹信  
審査担当者 副査 教授    平野 聡  
副査 教授    坂本 直哉  
副査 准教授   本間 明宏

### 学位論文題名

A study of the new preoperative prognostic scoring system to predict prognosis in patients with locally advanced pancreatic body cancer who undergo distal pancreatectomy with *en bloc* celiac axis resection

（腹腔動脈合併尾側膵切除が適応となる局所進行膵体部癌症例における術前因子を用いた予後予測システムの研究）

本研究では、腹腔動脈合併尾側膵切除（Distal Pancreatectomy with *en bloc* Celiac Axis Resection: DP-CAR）が適応となる局所進行膵体部癌症例において、術後に転移再発を生じにくい真の手術適応症例を選択するため、術前因子のみを用いた予後予測システムを構築することを目的とした。その結果、術前に評価可能な独立した予後規定因子として、術前血小板数、術前 CRP 値、術前 CA19-9 値が抽出され、これらを用いて予後予測スコアリングシステムを確立した。このスコアリングシステムは DP-CAR 症例の予後を的確に反映しており、局所進行膵体部癌の治療法を選択する上で有用な情報を提供できる可能性が示唆された。

審査会での質疑応答では、副査 坂本直哉 教授より本研究で対象とした 2008 年までの症例以降の症例における PPS の再現性、他施設での DP-CAR の施行状況、そして独立した予後規定因子として抽出された術中出血量の意義に関する質問があった。次に副査 本間明宏 准教授より生存分析に overall survival ではなく disease specific survival を選択した理由と血小板数の cut off 値の設定に関する質問があった。続いて副査 平野聡 教授より DP-CAR の適応基準と合併症に対する対策、相関係数に関する統計学的解析方法について、また、肝転移に関する術前検索方法や術中散布の可能性について質問があった。最後に主査 武富紹信 教授より独立した予後規定因子として直接的な腫瘍因子が抽出されなかった点に関するコメントがあり、さらに今回の研究結果を踏まえた今後の治療戦略について質問があった。

申請者はいずれの質問に対してもその主旨を良く理解し、自らの研究内容と文献的考察を交えながら適切に回答した。

審査員一同はこれらの研究成果を高く評価し、大学院課程における研鑽や取得単位なども併せ、申請者が博士(医学)の学位を授与されるのに十分な資格を有すると判定した。